

平成 28 年度 東京都立戸山高等学校学校経営計画

校長 決定

I 目指す学校像

本校の輝かしい歴史と伝統を受け継ぎ、「国際社会に貢献するトップリーダー」を育成する学校を目指す。そのために、個々の生徒に応じたきめ細かい教育を充実させ、自主自立を促す教育を推進する。また、オリンピック・パラリンピック教育とSSH事業を活用して、豊かな国際感覚を醸成する。

そのために、以下の方策を推進する。

1 強い意志と高い志の育成

新教科「人間と社会」及び本校独自のキャリア教育と進路指導を通じ、社会に貢献する意志と能力、大きな夢を実現する計画性、着実さ、粘り強さを育成する。

2 充実した授業

学問に対する興味・関心を抱かせ、学ぶ意欲を向上させる授業を行うことにより、生徒が、①自ら課題を発見し、自ら考え、判断し、工夫して、解決していく力 ②コミュニケーション能力 ③国際性及び日本の歴史と文化に対する幅広い教養、を身につけられる教育を推進する。

3 メリハリのある学校生活

生徒が自主的・計画的・継続的に学習を進め、学習を中心に置きつつ、学校行事や委員会活動、部活動等への積極的な参加を通じて、社会的自立と社会貢献への意欲と能力を育成する。

II 中期的目標と方策

以下の1～7に関して、平成30年までに達成する。

1 学習指導における学力向上への継続的な取組と、幅広い教養および豊かな国際感覚の醸成

高い進路目標に、主体的・意欲的に取り組ませ、学力の向上、幅広い教養の育成、国際性の育成を図る。大学に入学してから、社会に出てから役立つ「生きる力」を育成する。その途中経過として難関国公立大学等への進路希望を実現させる。

- ① 学習ガイダンス等により、入学時の高い進学目標を持ち続けさせ、目標達成のための努力を促す。
- ② 1学年では、夏季休業期間前後での「中学校での学習から高校での学習」への移行を円滑に行い、1日平均3時間自主学習させる。2学年では、学習中心での部活・行事であることを徹底して、1日平均3時間自主学習させる。3学年では、第1目標をあきらめさせず後期入試まで頑張らせる指導を全校体制で行い、「教科・科目と学年のマトリクス」を活用し、同学年での教科間、同教科での学年進行に関して学習成果を高める連携を強める。
- ③ 日々の授業は勿論、次世代リーダー育成道場等の事業、海外の姉妹校等との交流、読書活動（ビブリオバトル等）、文化活動、講演会等の充実を図り、日本人としての教養、国際人としての教養を身に付けさせるとともに、異なった文化、異なった価値観を持つ人々を理解し受入れ、「多様性」を強みとできるような人間を育てる。

2 進学指導重点校としての教育条件の整備

進学指導重点校にふさわしい教育課程、教育方法、自主学习体制を確立する。

- ① 習熟度別授業、少人数授業等とICTの活用により、個々の生徒に応じた指導を実現する。
- ② 自習室の整備（専用自習室2、図書室自習空間1の計3）と退職ボランティアやOBによるチューターを活用し、自主学习の条件整備（午後8時まで使用可）を行う。
- ③ 入学時からの学力定点観測と「学力進路データベース」の整備により、個々の生徒の現状を全教員で共有し、学力の向上と希望進路の実現を図る。
- ④ ケース会議を活用し、進路部を中心として、学年と教科が個々の生徒の情報を共有して学力向上と進路実現を図る。
- ⑤ 学校外の機関等と連携し、総合的な学習の時間等を活用して、普通科進学校としてのキャリア教育を推進する。

3 難関国公立大学へ進学希望実現への取組

「生きる力」を育成する途中経過として、難関国公立大学等への進路希望を実現させる状態を継続する。

- ① 難関国公立大学を目指す生徒数を3年生で200名以上とする。
- ② センター試験の5(6)教科7(8)科目型受験者250名、総合点（900点満点）で760点（約85%）以上の得点者の数を50名以上とする。
- ③ 現役での、国公立大学合格150名、難関国公立大学合格35名、東大合格10名以上とする。

4 チームメディカルの結成

東京都教育委員会により、医学部等への進学を希望する生徒がチームを結成し互いに切磋琢磨し支えあう事業（チームメディカル）の実施校に指定された。医師としてのキャリア教育と医学部進学指導を二本柱として、生徒の進

路実現の支援をする。また、この事業において、クラウド等を活用して生徒個々の学習状況と学習成果を迅速かつ的確に把握して指導するシステムを確立し、他の理工系進学者、文系進学者の進路実現に応用する。

- ① 国公立大学等医学部医学科（自治医大、防衛医大、私立医大東京粹等を含む）の現役合格者を7名以上とする。

5 学習を中心とした自律的生活習慣の確立と生活指導の充実

学習を中心とした学校生活における時間、意識の切替えを徹底する。生活指導指針に基づき、いじめを許さない生活指導と体罰根絶を徹底する。

- ① 部活動、学校行事等の意義を踏まえつつ、効果的な活動に向けた一層の活動時間・活動時期の改善を行う。
- ② 学校いじめ対策委員会を活用し、管理職、養護教諭、生徒指導主任、学年主任、学級担任、スクールカウンセラーが連携し、いじめを予防するとともに、その端緒で速やかな解決を図る。
- ③ 部活動に関して、顧問教諭と外部指導員とが連携して体罰を許さない体制を構築する。

6 スーパーサイエンスハイスクール事業（以下SSHと略称）の充実・推進

国際社会に貢献しうる突出した科学技術系人材を育成するとともに、全生徒を科学技術のリテラシーを持った地球市民に育てる。

- ① 各種大会、研究発表会並びに諸科学オリンピック等を目指す生徒を育成し、全校的な支援体制を確立する。
- ② 国際的な展開を考えて、海外を含む研究機関及び他のSSH校との連携を進める。
- ③ 新たな指導要領改訂に資するような、理数教育の教育課程上の工夫・研究に取り組む。
- ④ SSH事業での成果を、東京都および首都圏に紹介し、地域の理数教育発展に寄与する。

7 生徒募集事業と広報のための各種事業の充実

教育活動の成果、説明会等諸事業を迅速且つ計画的に広く都民に発信する。

- ① 通学等の交通機関における整備状況に対応した戦略的な募集・広報活動を展開する。
- ② ホームページと学校公式ツイッターの更新をはじめ、学校情報の発信を定期化し、広報活動の充実を図る。
- ③ 総務部と経営企画室が連携し、保護者・地域向けにも情報発信を強化する。

8 環境・安全・健康に配慮した学校づくり

学校生活の安全確保、生徒の心身の健康を維持・促進させるための環境の整備を図る。

- ① 個人情報管理の組織的かつ徹底的な取組みにより、事故を防止する。
- ② 防災・防犯において関係機関との連携を行い、生徒の安全を確保する。
- ③ 部活や授業での体育活動における事故を防止して、安全を確保する。
- ④ ごみの分別をはじめ校内美化を徹底するとともに、同窓会(城北会)と連携しての校内の環境整備を推進する。
- ⑤ 自転車使用に関する安全指導をはじめとした交通安全指導を徹底する。

9 オリンピック・パラリンピック教育、英語教育推進校事業とSSH事業を活用した豊かな国際感覚の醸成

国際性の涵養には、他国との交流が最も効果的である。標記事業を通じ将来国際社会で活躍しうる国際感覚を醸成する。

- ① アメリカ合衆国、韓国、台湾等の姉妹校を10校以上とする。
- ② 姉妹校との間で、直接交流はもちろん、インターネットを活用し、常時、理数等の共同研究を30テーマ程度行う。

III 今年度の取組目標と方策

1 オリンピック・パラリンピック教育の推進と体力向上

- ① 全教科を通じて世界友達プロジェクトを推進し、海外からの姉妹校等の来校者を歓迎し交流するとともに、インターネットを通じて常時交流して理解を深める。
- ② 全教科を通じて日本の歴史と文化に対する理解を深め、日本人としての自覚と誇りを涵養する。
- ③ オリンピック・パラリンピックを良い契機として、生涯にわたりスポーツに親しむ姿勢を育てる。
- ④ 特に本校生徒の弱い投擲力等について指導の工夫を凝らし、3年間で着実に向上させる。

2 英語教育推進校事業の推進

- ① 国際社会で貢献する人材を育成すべく、オンライン英会話やJET等の活用で特に「聞く」「話す」力を育てる。
- ② 4技能を測定する外部検定試験を1学年と2学年全員に受験させ、総合的な英語力向上を図る。
- ③ ALTおよびJETを活用し、現代英語として適切な表現ができる力を育成するとともに、理数論文等でも的確な表現ができる力を育成する。
- ④ 英語科教員のオンライン英会話研修により、英語による英語授業を円滑に行えるようにする。

3 安全・健康等への取組

- ① 体育科教員および部活動顧問教員の適切な指導で、重大事故0を継続する。
- ② 地震等に対する避難訓練、防災教育を充実させ、万一に備える。
- ③ 障害のある生徒への的確な対応と、障害者理解を深める教育を行う。

IV 重点目標と方策

1 学習指導

- ① 年に2回学習状況調査を実施し、1日の自主学習時間を1、2年生は3時間、3年生は5時間を徹底する。
- ② 1学年では、11月の定点観測のベネッセ模試総合成績において、偏差値74以上（東大）、偏差値68以上（難関国公立大等）、偏差値60以上（国公立大等）のそれぞれの偏差値帯において、7月実施の結果を上回るようにする。
- ③ 2学年では、定点観測の11月のベネッセ模試総合成績において以下の数値を目標とする。

74以上 16人 68以上 90人 60以上 203人

2 進路指導

項目	平成29年	平成28年	平成27年	平成26年	平成25年
① センター5教科以上受検者	250	223	239	210	217
② 同上760点(約85%)以上	45	29	42	23	18
③ 東京大学現役合格者	8	2	7	3	5
④ 難関国公立大学等合格者	30	21	26	16	11
⑤ 国公立大学現役合格者	128	106	128	87	73
⑥ 国公立大医学部現役合格者	3	2	1	0	0

③は④の内数であり、④は⑤の内数である。④は東大、京大、東工大、一橋大、国公立大医学部医学科である。

3 募集・広報活動

- ① 外的な変化があったとしても、戦略的な募集活動を充実させ志願倍率を維持する。推薦では男女とも4倍程度、一般入試では2倍程度とする。

4 スーパーサイエンスハイスクール事業の一層の充実

- ① 科学の甲子園等のコンテスト、研究発表会での上位入賞80以上を目指す（昨年度73）。
- ② 生徒の英語での研究発表を60以上行う（昨年度58）。
- ③ インターネットやテレビ会議等により、海外の機関との共同研究を実現する。
- ④ USAおよび東アジア、オセアニア等の大学、研究機関、高校との直接研究交流を行う。
- ⑤ 地域向け講演会や研究発表会を年12回以上開催し、科学技術未来館や区教委等の理数啓発事業に生徒と教員を3回講師として派遣する。
- ⑥ SSHクラス以外の生徒向けの理数講演会、教科融合型の講義、ワークショップ等を年間12回行い、理数リテラシーを育成するとともに、プレゼンテーション能力の向上を図る。
- ⑦ 地域の小学校の教員向けの理科実験講習会を年間6回行うとともに、地域の小学校および小学校教員の研究団体への理数教育向上の支援を行い、地域の理数教育の拠点となる。
- ⑧ 東京周辺の理科、数学科の教員向けの研修会を本校で月に一回開催する。
- ⑨ 本校で、SSHの研究成果合同発表会を開催し、発表校18校以上、見学者350名以上を集める。
- ⑩ 本校で、地域の大学と高校の理系女子の交流会を開催する。